

カウントダウンイベントin大山

平成23年12月31日、大山寺参道にある梅之丞でカウントダウンイベントが行われました。このイベントは「大山若手の会」が実行委員会を結成し、企画したもので今回で8回目になります。

午後11時30分頃、大山寺参道には県内外から若者を中心に約100人が集まりました。日付が変わる午前0時が近づくと、実行委員会の合図によって全員でカウントダウン。そして、新年を迎えると、かがり火からたいまつに火を

雪の中をたいまつ行列が静かに進みます



豪雪から一年ぶりの再会

～岡～

昨冬の豪雪時、国道9号線沿いに位置する岡集落では、その非常事態に岡公民館を避難所として開放し、雪で動けなくなった観光バスのツアー客らに有志が食事を提供するなど、救いの手を差し伸べました。岡集落へは後日、お礼の感謝状やお菓子などが届けられたそうです。

あれから一年。平成23年12月31日、岡公民館に避難したバスツアー客の1人、太田徹さん（東京都）が、あの日と同じ旅程のツアーに参加していました。旅行会社の特別の計らいで5分間だけ岡に停車することになりました。実は停車するまで、太田さんには、このことは知らされていなかったのです。

旅行会社から、通過予定時刻などあらかじめ連絡を受けていた岡のみなさんは、停車場所に待機して、太田さんを迎えました。いつか、お礼の気持ちを直接伝えたいと思い続けていた太田さんは、このサプライズに感激。5分間という短い時間でしたが、互いに感謝の言葉を掛け合い、再会を喜びあいました。

岡で民生委員を務める大西典子さんは「『感謝する気持ちの大切さ』を実感する、心に残る5分間でした」と今回の再会について、感慨深く話されました。



▲写真中央の男性が太田さん

灯して約30人が大神山神社奥宮へと行列を作って出発しました。奥宮へ続く石畳は、さながら雪の回廊となり、たいまつ照明の明かりに照らされて幻想的な空間になっていました。主催した実行委員会は、「夏山開き祭で神社から降ろした火を、冬に元の場所へ戻すという意味をもたせて、この行事を行っています。次はたいまつをもっと増やして、より長い行列を作りたい」と意欲的でした。



▲「今後も活動に励みます」と語る黒田さん（右）

厚生労働大臣表彰

おめでとうございます

このたび、大山地区で活動されている「食事サービスボランティアふきのとう」が、厚生労働大臣表彰を受賞されました。

同グループは、安否確認をかねて独居の高齢者にお弁当を届ける配食サービスを、20年あまりにわたって行っています。このボランティア活動が、地域住民の福祉に大きく貢献していると高く評価されたものです。

グループの代表を務める黒田ノリ子さん（坊領）は「平成元年から活動をスタートし、あつという間に20年が過ぎました。今回このような表彰をしていただき、うれしい一言に尽きます。地元でとれるものを使い、喜んでもらえる味つけを心がけています。お弁当がおいしかったと言ってもらえるときが一番の喜びです」と笑顔で話されました。